

地域創生戦略関係事業実施状況1（地方創生推進交付金対象事業）

今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業

事業目的

精華町の地元産品・観光のブランド力強化に向け、「いちごのまち」「スイーツタウン」を推進する為、「お茶の京都」事業との連携を図り、川西観光農園の閉園後における、観光農業の再生を目指し、体験型観光農園の継続支援や特産化を目指し種々取り組みを進めている「洛いも」の新商品化支援など、観光農業の推進に取り組む。

事業結果概要

○ 農業や地域産品を活かした産業振興・観光振興施策の実践

実施内容:いちごを軸とする産業振興・観光振興を図るため、京都初の夏秋いちご栽培実証実験に取り組み、そのニーズや「いちごのまち」としてのシティプロモーション策を検討したほか、お茶の京都ポストイヤーイベントとして開催された「宇治茶まつり」や「ごちそうフェスタ」において、特産品販売に併せて町のPR活動を行った。

これまで観光の課題であった周遊性や、情報提供の多様化・即時性を高めるため、観光ポータルサイトを構築した。

観光農園における更なる魅力増進や付加価値の向上に向けて、生産者、スイーツ店、学研企業の研究者など、多様な視点からの意見交換を行うと共に、観光体験を記録し振りかえる事によるリピート性を高めるために、フォトスポットなどの設置を行った。また、昨年度に引き続き観光農園や洛いも団体への補助を行うほか、お茶の京都DMOと共に京都府南部の広域観光振興を図った。

事業成果

「いちごのまち」を推進する為に、冬～春における「いちご狩り」の季節に加えて、夏～秋において収穫が可能となる「夏秋いちご」の栽培について、調査を行い、その生産可能性や販路などについて、多角的な検討結果に基づき、実証実験に取り組まれる観光農園の支援ができた。

観光ポータルサイトを設置する事で、観光スポットに加えて、飲食店などの情報を含めた、観光モデルケースなどの提案が可能となり、町内観光の周遊性を高める事ができた。

観光農園及び洛いも生産団体の活動支援を行うことで観光・地元産品のブランド力強化を図ることができた。

お茶の京都博ポストイヤーにおけるメインイベントとして、京都府主催の「宇治茶まつり」「ごちそうフェスタ」において、新たな特産品である「いちごのフレーバーティー」を活用した、カフェ形式でのブース出展などを中心に特産品の販売を通じて、町のPRを行う事ができた。お茶の京都DMOにより、けいはんな記念公園における体験メニューの商品化可能性を検討し、ファムトリップにおいて評価を得る事ができた。

事業決算額

35,306,215円（交付金充当19,345,000円）

主な経費

農業や地域産品および学研都市ブランドを活かしたシティプロモーションによる産業振興・観光振興業務：11,000,000円・観光農業推進事業補助金：12,992,000円・精華町観光ポータルサイト構築業務：4,320,000円・観光いちご園PRイベント等実施業務：2,818,800円・お茶の京都DMO負担金：3,050,000円 など

今後の課題・展開等

観光農園の集客は回復基調であり、これまでの支援の成果が確認できるが、その経営母体の経営ノウハウや就業者の高齢化に起因する今後の運営についても包括的な支援が必要と見込まれる。今後も「いちご狩り」を中心とした「いちごのまち」「スイーツタウン」を精華町観光農業の基軸に据え、そのブランド力向上や認知度の向上を図り、継続的で安定的な精華町観光農業の展開を図る。



地域創生戦略関係事業実施状況2（地方創生推進交付金対象事業）

京都アカデミック産業創造事業

事業目的

国の地方創生推進交付金の対象事業として、交流人口を継続して増加させ経済活動に反映するため、引き続きサブカルチャー振興を深化させるとともに、情報発信力の強化、遠方からのリピーターの拡大、「クールジャパン」を意識したインバウンド対策、地域観光資源の掘り起こしを戦略的に進めることで、サブカルチャーによる誘客拡大と地域資源の付加価値向上による地域の消費活動の促進を図る。

事業結果概要

大学機関や企業との連携による、「科学のまちの子どもたち」プロジェクトの推進や、サブカルチャーに関するクリエイター支援の取組み、また、地域の魅力発信や交流人口の拡大や京町セイカを活用した「精華町地域創生戦略」に基づくシティプロモーションの推進を図った。

- 大学機関や企業とのコンソーシアムによるSEIKAクリエイターズインキュベーション推進拠点の運営
- 学生や社会人によるワークショップやハッカソンの開催
- 首都圏でのサブカルチャー関係イベント等における町広報キャラクター「京町セイカ」を活用した「学研都市精華町」のPR活動
- 科学体験フェスティバル等の「科学のまちの子どもたち」プロジェクトを通じた魅力発信
- 地元金融機関との連携による農業や地域産品の活用、産業振興・観光振興やシティプロモーションにつながる京阪奈新線延伸に関する調査
- 音声合成等を活用した行政情報発信ウェブサイトの構築
- 台湾人気フォトグラファーによる現地写真展やコスプレヤーの招致による町の魅力発信から、インバウンド観光を促進
- けいはんな学研都市活性化促進協議会を通じて、文化・学術両面でのけいはんな学研都市の交流活性化を促進

事業成果

- 産官学の連携による「科学のまちの子どもたち」プロジェクト及びサブカルチャー振興を推進できた。
- 広報キャラクターの活用やサブカルチャー振興などを通じて、全国に向けて学研都市精華町のPRや誘客拡大が図れた。
- 鉄道延伸に関する運行方式や利用者数、費用、運行方式を踏まえた観光路線のなどの基礎的資料が作成できた。
- 音声合成等を活用したウェブサイト構築により、ホームページのバリアフリー化が進み、キャラクターとICTを組み合わせた学研都市ならではの魅力発信が可能となった。
- けいはんな学研都市活性化促進協議会による各種事業により、けいはんなプラザを核とした文化・学術活動の拡大が図れた。

事業決算額

36,203,244円（交付金充当18,101,621円）

主な経費

・産業振興・観光振興に向けた調査分析：4,994,260円、音声合成等を活用した行政情報発信ウェブサイト構築業務：6,858,000円、SEIKAクリエイターズインキュベーションセンター オープニングイベント企画運営業務：839,376円、サブカルチャー振興を活かしたインバウンド対策事業：3,499,200円、「まっふるぶらりまち歩き京都精華町」増刷業務：1,350,000円、けいはんな学研都市活性化促進協議会分担金：6,500,000円 など

今後の課題・展開等

- けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)内に整備した「SEIKAクリエイターズインキュベーションセンター」を拠点としたクリエイターの育成や科学のまちの子どもたちプロジェクトの推進を通して、学研都市精華町のさらなる魅力発信と拠点運営を効果的に推進する必要がある。
- 産業振興や観光振興につながる京阪奈新線の延伸に向けて、地元企業などの機運を高める必要がある。
- 各種団体との連携・協働を通じて、「けいはんなプラザ」のさらなる知名度向上と学研都市の活性化を促進する必要がある。



地域創生戦略関係事業実施状況3（地方創生推進交付金対象事業）

インクルーシブソサエティ（共生で賑わう社会）推進事業

事業目的

精華町地域創生戦略に基づくシティプロモーションにおける基本目標「健康・スポーツによる地域活性化」の一環として、京都府等との連携のもと、共生社会の実現に向けた環境整備のための取組を進める。

事業結果概要

精華町地域創生戦略に基づくシティプロモーションにおける基本目標「健康・スポーツによる地域活性化」の一環として、京都府等との連携のもと、共生社会の実現に向けた環境整備のための取組を進めた。

○「パラスポーツの普及・啓発」全国的に活躍されているポッチャのパラアスリート4名を招き、障害のある人と関係機関が交流する場等を設ける。

10月27日 京都府立南山城支援学校 支援学校生のポッチャチームとパラアスリートとの合同練習及び交流。参加者：70名

10月28日 むくのきセンター 障害児者ふれあいのついで、ポッチャの実演や交流、ポッチャ以外のパラスポーツ競技の展示。参加者：520名

○「福祉と農業の連携活動の普及・啓発」町内の障害関連事業所で唯一、農業関連の事業を実施していた「おーぶんせさみ」へ業務委託し、約795㎡の農地を借り、事業を実施した。また、農福連携普及啓発の講演会を実施した。

業務従事利用者数12名 農業指導職員2名 収穫状況：9種目

講演会 開催日:2月24日 場所:かしのき苑 講師:さんさん山城 参加者:21名

内容:精華町における農福連携について、さんさん山城型の農福連携

事業成果

○障害のある人もない人もパラスポーツを通じて相互理解を深めるとともに、パラスポーツの楽しさや魅力を発信するきっかけとなった。特に、京都府立南山城支援学校との合同練習を通して、選手を間近で見ながら、競技力の向上や競技の楽しさを改めて実感してもらえた。

○地元農地を借りることで地元農家との関係が生まれた。また京都府式農福連携の南圏域のサテライトである「さんさん山城」と連携することで、販路の相談や事業拡大に関する助言など関係構築が図れた。

事業決算額

2,489,400円（交付金充当：1,244,700円）

主な経費

- ・精華町障害者スポーツ振興事業委託：1,490,400円
- ・精華町農福連携推進モデル事業委託：999,000円

今後の課題・展開等

○パラスポーツを生涯スポーツに発展させるために、広く住民にパラスポーツを知ってもらう環境づくりが必要である。

○地域住民とつながり、地域と共生することで、新たな障害のある人の雇用の場や居場所となるよう取り組む必要がある。

